

「中耳炎について」

耳鼻いんこう科・頭頸部外科 辻 亮



鼓膜の奥の空間を中耳といい、耳管を通じて鼻腔とつながっています。

感冒罹患時などに耳管を通じて細菌が侵入すると、急性中耳炎を発症します。抗菌薬投与や、炎症が強い場合には鼓膜切開などによって治療します。

乳幼児で耳管機能が未熟な場合や、様々な原因で耳管機能が障害された場合に、中耳腔に滲出液が貯留した状態が滲出性中耳炎です。原因となりうる疾患の治療や、鼓膜切開部にチューブを留置して、中耳の換気および貯留液の排泄を促します。

中耳の炎症が慢性化した状態が慢性中耳炎で、鼓膜穿孔が残ることが多く、耳漏を繰り返したり

聴力が低下したりします。

真珠腫性中耳炎では、堆積物が周囲の骨を破壊しながら増殖していくため、難聴のみならず、進行すれば顔面神経麻痺やめまいなども引き起こします。

慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎の多くでは手術が必要となり、中耳腔の病変の除去、鼓膜閉鎖、耳小骨の連鎖再建を目的とします。

従来の手術では耳後部から切開して側頭骨を削開していく方法が一般的ですが、当院では、内視鏡を使用して耳内からのみ手術を行う経外耳道的内視鏡下耳科手術（TEES）を導入しています。TEESでは患者さんの負担や入院期間が軽減されるため、症例に応じて積極的に行っています。



正常鼓膜



慢性中耳炎



真珠腫性中耳炎

平成30年度 地域医療部 担当者交流会・講演会のお知らせ

(まちなか総合ケアセンター共催)

日時：平成30年11月8日(木) 16:00~19:30 場所：富山市民病院 3階講堂

●担当者交流会 16:00~17:00

- ミニトーク 医療機関と在宅のスムーズな連携を目指して
「医療介護連携の実際～ケアマネジャーの立場から」
もなみ指定居宅介護支援事業所 酒井 昭子氏
- グループワーク

●講演会 18:00~19:30

- テーマ：幸福論：実践的幸福論 ～患者さんも医療者もみんなが必ず幸せに！
- 講師：名田庄診療所 中村 伸一先生

※たくさんの方のご参加お待ちしております。



研修・講演・勉強会のご案内

11月分

1. 地域連携症例検討会 (拡大版)

※11月は、参加申込みが必要です。詳しくは、ふれあい地域医療センターへご連絡ください。(TEL 076-422-1112代表 内線2989)

日時:11月13日(火) 19:00~21:00 場所:当院3階 講堂

1) ミニレクチャー

(1) 変わってきた喘息治療

1990年代より気管支喘息は気道の慢性炎症性疾患の概念が確立し、1993年に喘息予防・管理ガイドライン初版が発行され、吸入ステロイド薬が長期管理薬の第一選択に位置づけられた。しかしながら、高用量の吸入ステロイド薬でコントロールできない重症喘息が10%程度存在し、喘息医療費全体の50%以上を占めている。

重症喘息に対する治療としては、2009年に初めて喘息の抗体製剤である抗IgE抗体オマリズマブが承認された後、久しぶりに本年のガイドラインで新たに抗IL-5抗体製剤、抗IL-5受容体α抗体製剤が追加され

呼吸器内科 野村 智

た。抗IL-5抗体であるメボリズマブは、好酸球喘息に対して、増悪抑制効果、経口ステロイド減少効果、QOL改善が示された。抗IL-5受容体α抗体であるベンラリズマブはIL-5の阻害作用のみならず、IL-5抗体と異なる作用機序で好酸球を迅速に減少させるとされ、増悪、1秒量、症状、QOLを改善し、経口ステロイド減少効果も示された。

本年のガイドライン改訂にともない新たに加わった治療につき紹介させていただき、該当する患者さんがいらっしゃいましたらご紹介いただくと幸いです。

(2) 乳癌の術前化学療法について

乳癌の治療では、病期と癌のサブタイプ、患者背景に応じて、局所療法(手術・放射線治療)と全身(薬物)療法を組み合わせる集学的治療を行う。治療目的は病期・病態により異なり、遠隔転移のない原発乳癌では治療を目指す、治療困難な進行再発乳癌では生命予後の延長とQOLの維持を目指す。

治療を目指す乳癌において診断確定後に最初に取り組む一連の治療を初期治療と呼ぶ。初期治療では局所療法と合わせて薬物療法を行うことにより潜在的な微小転移の制御、癌の根治を目指す。薬物療法には内分泌療法、抗HER2療法、化学療法があり、治療効果予測因子や予後因子(病理学的因子)によってその適応を検討する。

術前化学療法は従来、手術不能局所進行乳癌に対し、手術を可能に

乳腺外科 吉川 朱実

する目的で行われてきた。その後、手術可能乳癌においても、初期治療の一環として化学療法が必要な場合、術前と術後で再発抑制効果が同等であることが確認され、術前化学療法も標準治療となった。HER2陽性の場合、抗HER2療法も併用する。

術後投与と比較した術前化学療法の利点としては、1)切除率や乳房温存率の向上、2)薬剤感受性の情報を得られること、3)治療効果が予後予測に有用な可能性、が挙げられる。問題点としては、1)化学療法抵抗性の場合に癌が進行するリスク、2)正確な病期診断ができなくなること、等が挙げられる。

発表では実際の症例を供覧する。

2) 症例検討

(1) 乳がん手術後にうつ症状が増悪して精神科入院を必要とした一症例

精神科 西田 公彦

(2) 内側半月板後根断裂から急速に膝骨壊死に至った1症例

整形外科 五嶋 謙一

予告

日時:平成30年12月11日(火) 19:00~20:15

場所:当院3階 集団指導室(改修工事のため場所が変更になります。)

内容:①症例検討 2例 腎臓内科・歯科口腔外科 ②ミニレクチャー (担当)泌尿器科

2. 内科CPC

日時:11月13日(火) 17:30~

場所:医局カンファレンス

3. 緩和医療部会学習会

日時:11月13日(火) 17:45~18:45

場所:看護外来

○テーマ:症状コントロール「浮腫」

○講師:緩和ケア認定看護師 金丸 修子

4. 医療機器研修会

日時:11月27日(火) 17:45~18:15

場所:看護外来

○テーマ: NPPVとハイフローセラピー

~明日から使うための基礎知識~

○講師:臨床工学技士 島崎 哲弥

5. 糖尿病研究会定例学習会

日時:11月15日(木) 17:45~18:30

場所:看護外来

○テーマ:糖尿病とフットケア

○講師:内分泌代謝内科医師 家城 恭彦

6. 感染予防対策学習会

日時:11月21日(水) 17:30~19:00

場所:講堂

○テーマ:(仮)抗菌薬を開始するタイミングと終了するタイミング

○講師:金沢医科大学病院 感染症科教授 飯沼 由嗣先生

7. 褥瘡対策学習会

日時:11月30日(金) 17:30~18:00

場所:集団指導室

○テーマ:褥瘡予防のスキンケア(スキナーケア)

○講師:看護師 宮田 美智子

8. NST学習会

日時:11月26日(月) 17:30~19:00

場所:講堂

○テーマ:①経腸栄養法について

(成分栄養剤・消化態・半消化態栄養剤)

②簡易懸濁法について

③経腸栄養ポンプの取り扱い・inbodyについて

○講師:①管理栄養士 稲葉 美寿々

②薬剤師 武藤 昂一郎

③臨床工学技士 熊谷 智哉

9. 富山地域リハビリテーション研修会

日時:11月29日(木) 18:00~19:00

場所:集団指導室

○テーマ:便秘のはなし

○講師:皮膚・排泄ケア認定看護師 青木 かずみ

10. 看護研修

《衛星研修S-QUE Eナース》

※予約申込が必要です。ふれあい地域医療センターへご連絡ください。

(TEL 076-422-1112代表 内線2989)

○テ — マ:外来化学療法と病棟との連携

視聴期間:11月13日~12月7日

○テ — マ:人生の終焉を迎えたがん患者と家族の心のケア

視聴期間:11月27日~12月21日





院内の専門職員のご紹介

「医学物理士」って知っていますか？

「がん」治療は集学的治療（様々な治療を組み合わせで行う治療）が現在主流となっており、集学的治療の三本柱として外科療法、化学療法、そして当科が担っている放射線治療が主に行われます。当院では主治医、放射線腫瘍医、看護師、診療放射線技師、医学物理士が協力して、患者さんに安心・安全で良質な放射線治療を提供できるよう取り組んでいます。

医学物理士という職種を耳にしたことがある方はあまりいないかもしれません。近年の放射線治療技術の進歩は目覚ましく、高度な専門性を有する放射線治療（高精度放射線治療）となってきました。この高精度放射線治療を安全に確実に行うためには医学物理士の役割が非常に重要とされています。

放射線治療では、治療計画用CT、治療計画装置、治療装置本体、線量測定機器など多くの装置が使用されるため、これらの装置に異常が発生してしまうと治療が

一般財団法人医学物理士認定機構 医学物理士

放射線技術科
診療放射線技師

辻内 孝文



正しく行われなくなってしまう。こういった異常が発生しないように、医学物理士は装置の品質管理プログラムを実行し、正しく治療が行われることを保証します。また放射線腫瘍医の治療計画通りに正しく照射されていることを様々な線量測定を行うことによって保証しています。

欧米ではこの医学物理士と言う職種は古くから専門職として確立しており広く知られている様ですが、日本においてはまだまだそのような状況にはなっていません。今回この記事を見ていただいている多くの方に医学物理士という職種を知ってもらえれば幸いです。安全で安心な放射線治療を提供できるよう日々努力していきますのでよろしくお願いいたします。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

11月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	石田	20日	外科・消化器外科 乳 腺 外 科	藤村	1日
	樋上	1日、2日		吉川	2日、12日
	寺崎敏	26日、27日、30日		庄司	28日
	林	16日		萩野	2日
	家城	1日	脳神経外科	山野	2日
	寺崎靖	21日、22日、30日	呼吸器・血管外科	瀬川	29日
	野村	2日、30日	精 神 科	長谷川	30日
	清水	2日		西田	20日、21日、22日
整形外科・ 関節再建外科	村松	27日	坂本	1日	
	澤口	2日、9日、16日、20日、27日	耳鼻いんこう科・頭頸部外科	辻	22日
	五嶋	8日	歯科口腔外科	寺島	30日
	重本	2日		高市	2日
藤田	7日	※その他、急に不在となる場合がありますのでふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168			

編集後記

スポーツの秋、台風の合間を縫って、先日娘のこども園で運動会がありました。娘はまだ「勝ち負け」にはこだわっていないようで、かけっこの最後尾を観客席に笑顔を振りまきながら楽しそうに走っていきました。出番の少なくなった終盤には団席で居眠り…。なんとも力の抜ける観戦となりました。来年はもう少し白熱した応援ができることを期待しつつ、私自身も来年にはなにが成長できているよう、日々向上心を忘れずにいたいと思います。

今年度より編集委員となって半年が経ちました。まだわからない事も多いですが、少しでも皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科 沖 理恵



作：病院ボランティア
篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp